

行田市二十歳を祝う会実行委員会 二十歳の抱負

1月7日(日)、産業文化会館ホールで令和6年行田市二十歳を祝う会が開催されます。ここでは、この式典の計画を行ってきた実行委員に二十歳を迎えた心境や抱負などを語っていただきます。

令和6年 年頭のごあいさつ

明けましておめでとーいございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、令和2年の初頭から世界中で猛威をふるった新型コロナウイルスの流行もようやく終息の兆しを見せ、今では私たちの生活も徐々にコロナ前の落ち着きを取り戻しつつあります。しかしその一方で、不安定な国際情勢などの影響による原油価格や物価の高騰は続いており、私たちの暮らしや地域経済は、依然として厳しい状況が続いています。本市ではこのような状況に対して、水道基本料金の無料化やプレミアム付商品券の発行などにより、家計や事業者を支援してきました。今後も社会情勢を注視しながら、市民の皆様へ寄り添った対応をしてまいります。

本市にとって昨年は、江戸時代の文政6年に、幕府の命により忍藩・桑名藩・白河藩の藩主が入れ替わる「三方領知替」から200年という記念すべき年であり、これを記念して、3市の博

物館での合同企画展や、講演会、トークショーなど、様々なイベントを実施しました。市民の皆様におかれましては、こうした記念イベントや、街なかを彩るのぼり旗やポスターなどを通じて、改めて「行田が城下町であること」を強く感じていただけたのではないのでしょうか。そしてお城以外にも、行田市は、国の特別史跡である「埼玉古墳群」や、県内唯一の日本遺産である「足袋や足袋蔵」など、歴史資源が豊富なまちです。今後も、近隣他市が羨むこうした資源を活用しながら、魅力あるまちづくりを進めてまいります。

私は、昨年5月に「新しい行田へ、みなさんといっしょに」を掲げて市長に就任して以来、各地区での市政懇談会をはじめ、様々な機会での市民の皆様のお声をお聴きしてきました。行田市の最大の課題は人口減少であり、特に子どもや若い世代の人口が減っていることです。こうした課題を踏まえて、今年度は、子ども政策のさらなる充実や、将来を見据えた学校再編に取り組みを進めてまいります。さらに、新しい雇用の創

出や、市民の皆様から多くの声をいただいている地域公共交通の改善など、未来に希望が持てる「新しい行田」に取り組みでまいる所存です。市民の皆様には、どうか本年も市政に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が市民の皆様にとりまして、幸多きすばらしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



行田市長

行田邦子

「当たり前」の有難さ

実行委員長 **金子 拓幹**さん



二十歳という人生の節目を迎えた今、これまで支えてくださった方々に深く感謝申し上げます。思い返すと恥ずかしくなるほど未熟だった私たちを導き、見守ってくれた家族や先生方。そして、町内会の活動や登下校の見守り活動などを通じて支えてくださった地域の方々。当時の「当たり前」の日常は多くの方々の支えで成り立っていた、その有り難さに改めて気付かされました。加えて、近頃は就職に

向けて職業について考える機会が増え、「当たり前」に回っているこの社会は一人一人の尊い仕事によって成り立っているのだと実感しました。これから大人としてその一端を担うことに、喜びと責任を感じている次第です。

また、私たちは18歳から選挙権を得ていますが、20歳という節目を迎えて、改めて市民として日本の将来について考えていかねばならないと自覚しています。不安定な国際情勢の中、少子高齢化という避けられない問題を抱える日本。一市民が運動を起こすことは難しくても、常に情報が信頼できるか確認すること、そして身近な人とそうしたテーマについて話すことが重要と考えます。

結びに、皆様の今までのご支援なしに今の私たちはいないということを強く胸に刻んで、恩返しができるよう、勉強と挑戦を続けてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

責任ある行動

副実行委員長 **栗原 琉真**さん



今年の副実行委員長を務めさせていただき、とても光栄に思っています。

この機会をきっかけとして、自分の中の「二十歳としての自覚」について思いを巡らせてみました。自身の日々の過ごし方に関して言えば、これまでの生活から大きく変化したことはないように思います。ただ、年を重ねるにつれて、「責任」という言葉に重みを感じるようになりま

した。学校の課題提出であれば、期限を過ぎてしまっても、大目に見てもらえることもありましたが、「就活」となってくると、「どうせ平気だろう」は通用しません。また、さまざまな人との関わりも増え、その中で「報・連・相」や、自分が受け持った仕事をこなすなど、当たり前のことをしなければ、周りの人へ迷惑をかけてしまう、自分の信用を失ってしまうということを自覚する場面が増えました。今まではやりたいことを自由気ままに楽しんでできましたが、これからはそうはいかないということを改めて胸に刻んでいます。

これからは、一人の大人として胸を張れるよう、自分を見直し、成長していきたいです。また、この20年間の途中で支えてくれた家族や友人、先生など多くの方々への感謝の気持ちを胸に、皆さんへ恩を返すことができるよう努力をしていきたいと考えています。